《専門科目》

科目名	オペレッタ				
担当者氏名	古木　竜太、越智　光輝、大野　琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では演目の選択、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。①本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。②子どもが演じることを念頭に置き、音楽表現、造形表現、身体表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。③担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

練習や発表の取り組みから、音楽・造形・身体表現の技能に関することを60%、最終レポートを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

Microsoft社製のTEAMSを用いて、履修者専用のチームを作成し、必要に応じて資料を履修者専用チームにて提示する。

《参考図書》

①『たのしいオペレッタ』音楽之友社
②浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに

《授業時間外学習》

歌、ピアノ、踊りの練習、衣装、舞台装置の製作など、授業時間内で完成しなかったものについて取り組む。また、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して反復練習する。（本授業では15時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

最終レポートは評価した後、コメントを記載して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合表現活動としてのオペレッタ（越智）	参考に前年度までのビデオ観賞オペレッタの演目、配役、台本の決定〔時間外学習〕決定した演目の台本について加筆や修正事項をまとめておくこと（復習1時間）
2	オペレッタの演出（越智）	音楽の効果的活用法、身体表現、舞台効果、台本作成〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
3	オリジナル台本の作成（全体構成）（古木）	曲付け、効果音、舞台装置のデザイン〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
4	オリジナル台本の作成（分野別）（古木）	曲付け、振付け、効果音、衣装のデザイン〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
5	音楽表現の習得（基礎）（越智）	歌唱と台詞あわせの練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
6	音楽表現の習得（応用）（越智）	歌唱と台詞あわせの練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
7	身体表現の習得（基礎）（古木）	振り付けと演技の練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
8	身体表現の習得（応用）（古木）	振り付けと演技の練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
9	造形表現の実践（基礎）（大野）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
10	造形表現の実践（応用）（大野）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
11	通し稽古（全体構成）（古木、越智、大野）	通し稽古による全体構成の確認〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
12	通し稽古（部分稽古）（古木、越智、大野）	場面ごとの部分練習（立ち位置や幕の開閉、音出しのタイミング）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
13	舞台稽古・合評（前半）（古木、越智、大野）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
14	舞台稽古・合評（後半）（古木、越智、大野）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	舞台稽古・合評（発表）（古木、越智、大野）	五峯祭で発表、本授業の総括〔時間外学習〕オペレッタのパフォーマンスを振り返り、最終レポートをまとめる（復習1時間）

《専門科目》

科目名	オペレッタ				
担当者氏名	古木　竜太、越智　光輝、大野　琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では演目の選択、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。①本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。②子どもが演じることを念頭に置き、音楽表現、造形表現、身体表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。③担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

練習や発表の取り組みから、音楽・造形・身体表現の技能に関することを60%、最終レポートを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

Microsoft社製のTEAMSを用いて、履修者専用のチームを作成し、必要に応じて資料を履修者専用チームにて提示する。

《参考図書》

①『たのしいオペレッタ』音楽之友社
②浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに

《授業時間外学習》

歌、ピアノ、踊りの練習、衣装、舞台装置の製作など、授業時間内で完成しなかったものについて取り組む。また、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して反復練習する。（本授業では15時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

最終レポートは評価した後、コメントを記載して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合表現活動としてのオペレッタ（越智）	参考に前年度までのビデオ観賞オペレッタの演目、配役、台本の決定〔時間外学習〕決定した演目の台本について加筆や修正事項をまとめておくこと（復習1時間）
2	オペレッタの演出（越智）	音楽の効果的活用法、身体表現、舞台効果、台本作成〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
3	オリジナル台本の作成（全体構成）（古木）	曲付け、効果音、舞台装置のデザイン〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
4	オリジナル台本の作成（分野別）（古木）	曲付け、振付け、効果音、衣装のデザイン〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
5	音楽表現の習得（基礎）（越智）	歌唱と台詞あわせの練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
6	音楽表現の習得（応用）（越智）	歌唱と台詞あわせの練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
7	身体表現の習得（基礎）（古木）	振り付けと演技の練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
8	身体表現の習得（応用）（古木）	振り付けと演技の練習（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
9	造形表現の実践（基礎）（大野）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
10	造形表現の実践（応用）（大野）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
11	通し稽古（全体構成）（古木、越智、大野）	通し稽古による全体構成の確認〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
12	通し稽古（部分稽古）（古木、越智、大野）	場面ごとの部分練習（立ち位置や幕の開閉、音出しのタイミング）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
13	舞台稽古・合評（前半）（古木、越智、大野）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
14	舞台稽古・合評（後半）（古木、越智、大野）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	舞台稽古・合評（発表）（古木、越智、大野）	五峯祭で発表、本授業の総括〔時間外学習〕オペレッタのパフォーマンスを振り返り、最終レポートをまとめる（復習1時間）

《専門科目》

科目名	卒業研究プレゼミ				
担当者氏名	中村　敏男、専任教員				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、チュートリアル形式やゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》
①大学での学修の特徴について説明できる。
②共同学習の重要性について説明できる。
③「研究」とは何か、研究倫理の大切さも含めて本学のゼミについてその内容を列挙できる。
④ゼミナールに参加し、各領域の研究方法を説明できる。
⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》
レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
授業中適宜指示する。

《参考図書》
世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版] 」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》
授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるので、予習・復習あわせて1時間の時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
授業中に適宜行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大学での学びⅠ 高校までとの違い	オンライン授業の内容や方法も含めて、高校までと大学の学びの違い、大学での学びに必要な学習スキルについて、チュートリアルを通して明確にする。
2	大学での学びⅡ 必要となるスキル	SDGｓの「17の目標」について、世界各国、地球規模で問題・課題を調査し、プロダクトを作成する。
3	大学での学びⅢ 卒業研究の実際	卒業論文抄録に注目し卒業研究の実際に触れ、先行研究のまとめ方について、チュートリアルを通して身につける。
4	共同学習の意義Ⅰ コンセンサスゲーム	卒研グループ研究の共同学習の意義について、コンセンサスゲームを通して理解する。
5	共同学習の意義Ⅱ チームビルディング	卒研グループ研究の共同学習の意義について、チームビルディングを通して理解する。
6	研究論文の資料収集、作成の実際	プレゼンテーション資料の作成、「CiNii」の使用方法や引用文献の明記など、卒業論文作成時に必要とされる事柄について学ぶ。
7	ゼミの内容理解 インタビュー結果の報告	本学のゼミナールの内容について、各ゼミ担当者にインタビューを行い、本学のゼミナールの内容について理解する。
8	研究テーマの展望と研究倫理の理解	卒業研究のテーマについて、キーワードから過去の研究タイトルを調査し、自分の研究テーマについて展望するとともに、研究倫理の重要性について学ぶ。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《専門科目》

科目名	卒業研究プレゼミ				
担当者氏名	中村　敏男、専任教員				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
2年次での卒業研究論文執筆に向けて基礎知識を身につけるため、自らが主体的に課題に向き合い、必要なスキルや具体的な方策を探る。そのために、本科目では、チュートリアル形式やゼミナール形式、グループワークや発表学修の授業形態をとりいれ、卒業論文執筆に向けた意欲を高める。

《授業の到達目標》
①大学での学習の特徴について説明できる。
②共同学習の重要性について説明できる。
③「研究」とは何か、本学のゼミについてその内容を列挙できる。
④ゼミナールに参加し、各領域の研究方法を説明できる。
⑤卒業研究発表会に参加し、研究に対する質問を作成することができる。

《成績評価の方法》
レポート60%、ゼミナールへの行動記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
授業中適宜指示する。

《参考図書》
世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック[4訂版] 」2018年
石黒圭「論文・レポートの基本」2012年
本学卒業研究論文抄録集

《授業時間外学習》
授業で出された課題・自己学修の課題を確実に行うこと。本授業では、探究心が深くかかわるので、自分が興味を持った研究テーマを中心に、文献やインターネットで自主的に調べる習慣を身につける。毎回の授業の振り返り、次回の学習内容の準備に取り組む必要があるので、予習・復習あわせて1時間の時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
授業中に適宜行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ゼミナールの研究方法	各ゼミナールに分かれ、参加するゼミナールの研究方法、後期プレゼミの意義について理解する。
2	ゼミナールへの参加Ⅰ 2年生の研究内容理解	ゼミナールに参加し、2年生の行っている卒業研究の内容について、2年生の発表をもとにその概要を理解する。
3	ゼミナールへの参加Ⅱ 研究テーマの模索	ゼミナールに参加し、2年生の行っている卒業研究の内容について質問し、研究内容や研究方法について考える。
4	ゼミナールへの参加Ⅲ グループ研究の準備	ゼミナールに参加し、2年生の助言を受けながら個人研究のテーマ、グループ分け等について検討する。
5	ゼミナールへの参加Ⅳ 資料検索	ゼミナールに参加し、2年生の助言を受けながら、自分の研究テーマについて参考資料・参考文献の検索を進める。
6	ゼミナールへの参加Ⅴ 研究経過の報告	ゼミナールに参加し、資料検索の結果など分かったことや今後の研究の進め方などを発表し、2年生から助言を受けてプレゼミとしてのここまでの学修をまとめる。
7	卒業研究発表会	卒業研究発表会に参加し、各ゼミナールの研究成果を理解し、来年度の卒業研究の取組に向けて積極的に質問する。
8	/	/
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導Ⅰ				
担当者氏名	桐原　由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践について学ぶ。また、教育実習（観察・参加実習）の目的、内容ならび施設の機能、役割等を理解し、実習課題を明確化するとともに、実習に必要な知識、態度・技術を身に着ける。実習のねらいの達成のため、グループワークによるディスカッションを行う。

《授業の到達目標》
教育実習（観察・参加実習）に必要な知識、態度、技術を身につけることができる。
教育実習（観察・参加実習）に参加する自己課題を明確にし、表現することができる。
実習に対する振り返りを通して、自己の実践力や保育者としての課題を理解し、今後の実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》
提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
〇大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ｶﾞｲﾄﾞ」中央法規2020〇小櫃智子他「実習日誌・実習指導案ﾊﾟｰﾌｪｸﾄｶﾞｲﾄﾞ」わかば社2015〇「実習の手引き」〇保育用語辞典

《参考図書》
〇幼稚園教育要領および同解説
〇幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
〇無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
〇植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業時間外学習》
①実習の手引きを常に熟読し活用すること②実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。③実習用エプロン、名札の作成及び実習で必要とする文書の作成等④本授業では29時間の時間外学修が必要です。

《課題に対するフィードバック等》
提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の意義	教育実習の意義と実施要件～本学内規より
2	実習生調書及びオリエンテーションについて	実習生調書の作成・オリエンテーションに向けて・実習の手続き 実習前試験について
3	観察・参加実習の実際	実習生の１日と観察の観点
4	実習日誌の書き方	日誌の目的・記録方法
5	実習日誌の実際	実習日誌の書き方・記録の取り方、保育用語と望ましい表現
6	実習事前準備	マナー・部分実習について 実習中のQ&A　実習後の手続き
7	実習事後指導①	観察実習振り返り（子どもから学んだこと・保育者から学んだこと）
8	実習事後指導②	2年生からの体験談と今後に向けて（グループディスカッション）
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導Ⅰ				
担当者氏名	桐原　由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践について学ぶ。また、教育実習（観察実習）の目的、内容ならび施設の機能、役割等を理解し、実習課題を明確化するとともに、実習に必要な知識、態度・技術を身に着ける。実習のねらいの達成のため、グループワークによるディスカッションを行う。

《授業の到達目標》
教育実習（観察実習）に必要な知識、態度、技術を身につけることができる。
教育実習（観察実習）に参加する自己課題を明確にし、表現することができる。
実習に対する振り返りを通して、自己の実践力や保育者としての課題を理解し、今後の実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》
提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
〇大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ｶﾞｲﾄﾞ」中央法規2020〇小櫃智子他「実習日誌・実習指導案ﾊﾟｰﾌｪｸﾄｶﾞｲﾄﾞ」わかば社2015〇「実習の手引き」〇保育用語辞典

《参考図書》
〇幼稚園教育要領および同解説
〇幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
〇無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
〇植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業時間外学習》
①実習の手引きを常に熟読し活用すること②実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。③実習用エプロン、名札の作成及び実習で必要とする文書の作成等④本授業では29時間の時間外学修が必要です。

《課題に対するフィードバック等》
提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の意義	教育実習の意義と実施要件～本学内規より
2	実習生調書及びオリエンテーションについて	実習生調書の作成・オリエンテーションに向けて・実習の手続き 実習前試験について
3	観察実習の実際	実習生の１日と観察の観点
4	実習日誌の書き方	日誌の目的・記録方法
5	実習日誌の実際	実習日誌の書き方・記録の取り方、保育用語と望ましい表現・2年生から体験談を聞き、実習の参考とする（グループディスカッション）
6	実習事前準備	マナー・部分実習について 実習中のQ&A　実習後の手続き
7	実習事後指導①	観察実習振り返り（子どもから学んだこと・保育者から学んだこと）
8	実習事後指導②	今後の課題（グループディスカッション）
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-